



釋迦御氏文圖書

三

~ 13
4037
3



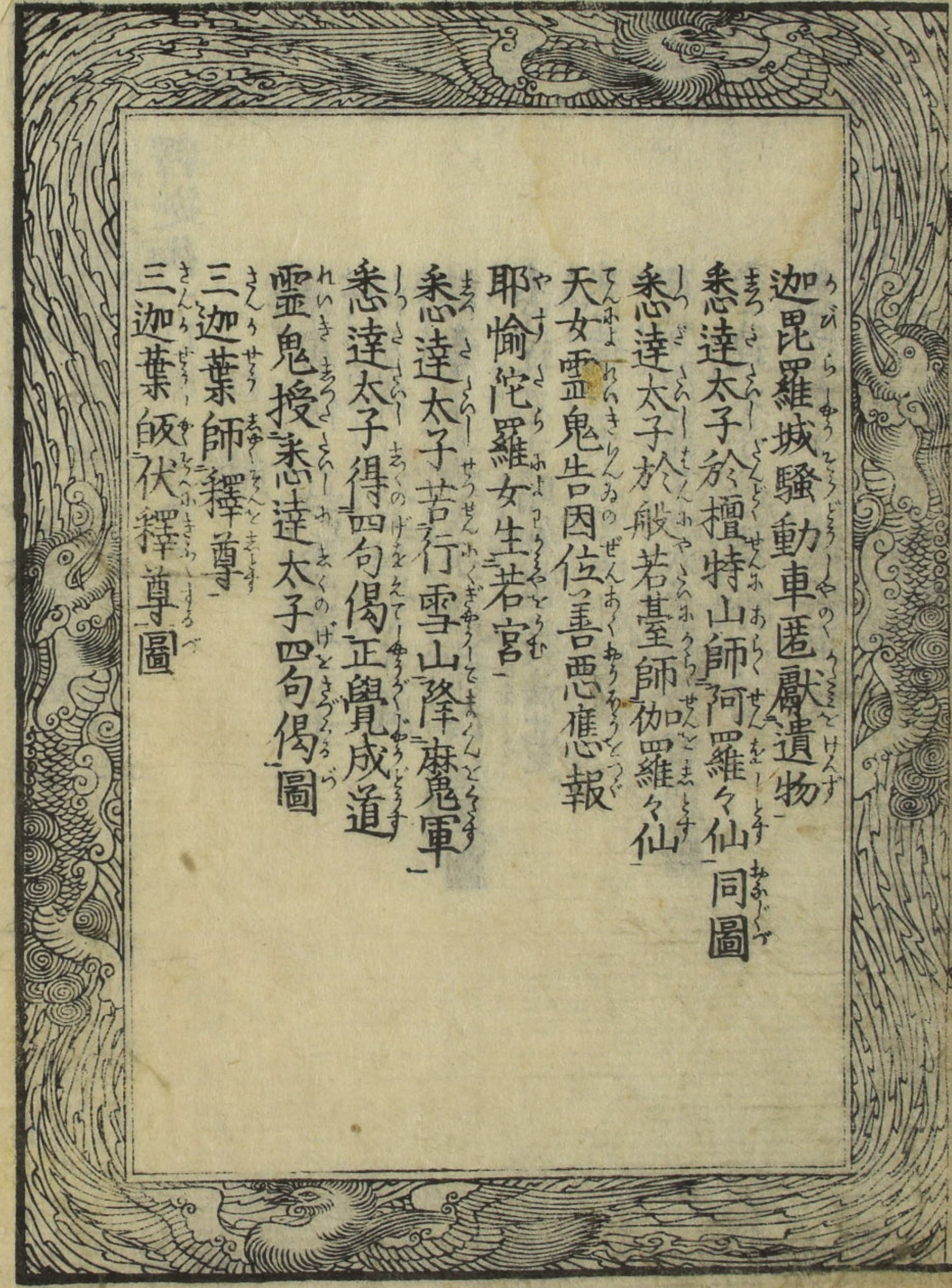
天長寺藏
御覽

釋迦御一代圖會卷之三

目錄

- 淨居佛三試悉達太子
- 淨居佛化比丘試太子圖
- 諸童子為太子語諸國地理圖
- 悉達太子暗知檀特法基
- 悉達太子出宮中赴檀特山
- 耶愉陀羅女与太子悲歡留別圖
- 悉達太子赴檀特山圖
- 悉達太子託遺物車匿

昭和42年12月12日
和田大作
贈



迦毘羅城騷動車匿獻遺物
 悉達太子於檀特山師阿羅々仙同圖
 悉達太子於般若基師伽羅々仙
 天女靈鬼告因位善惡應報
 耶愉陀羅女生若宮
 悉達太子苦行雪山降魔鬼軍
 悉達太子得四句偈正覺成道
 靈鬼授悉達太子四句偈圖
 三迦葉師釋尊
 三迦葉飯伏釋尊圖

釋迦御一代圖會卷之三

淨居佛三試悉達太子

浪華好花堂野亭考選

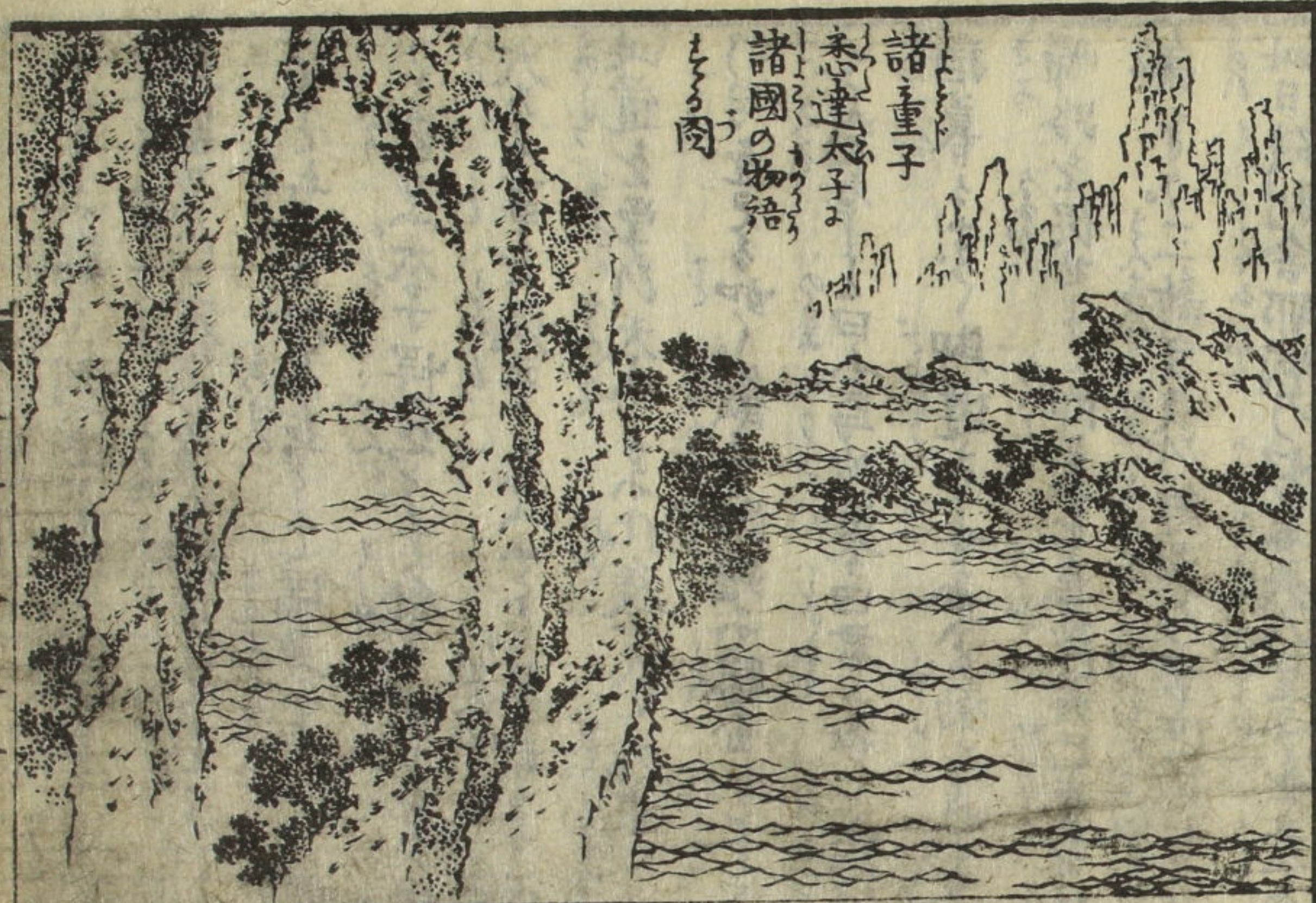
伽夷衛國王乃愛女耶輸陀羅女悉達太子乃新宮小備りく後ハ鹿野瞿陀那
 乃兩女と俱ハ三妃太子乃左右を片因由去む絲竹を綯を歌舞を奏し只官太
 子乃脚心を慰むるとも曾て関門ハ入らざれば三新宮とも小望を失ハ高峯の
 花をながむる心地ハ又ハ小橋曇彌夫人ハ淨飯王の内意を結耶愉陀羅女婚姻
 乃後ハ治定枕席を交むらちと日々ハ新宮小仕る女官を巨く向うともハ枕席
 を俱ふまむハ一体ハえむとと小を夫人心を困ハ小潜小耶愉陀羅女以下三新宮と
 招く仰々ハ抑太子の脚更何なる宿因乃然ハゆるハ只富貴歡樂を欲ハむと
 幾心修行乃そハた事然ハ好ハ大王余ハ皇子とそハ不在ハ只此事を度ハぬハ
 若宮中を潜出ハ事とヤク城乃四門ハ閉閉乃音四里ハ間ハ音中ハ小造役登
 夜三千人乃守衛乃監卒を置ハ宮内ハ容貌風姿勝ハる縁女童女三千人

を侍り且普く諸國を尋ねり。御身等三人乃新宮を備ふ。何卒出家宇
道乃念を断王位を受得ん事。欲しむ。然も三人も太子の御意を慰
出離の思を断轉輪王乃位を踏ふ事。計ひ。社貞操も孝行も。ヤナリ。夫
女乃身小ハ三乃怠あり。弟ハ嫉妬乃怠なり。電を争ひ。愛を合ふ心。自然不
良乃心生。嗔恚の焰。小胸乃鏡を曇せ。君乃護を怠る。事あり。是弟乃慎となり
二ハ慢心乃怠なり。君乃覺せ。人乃尊敬重ん。自然心憍り。其色外小顯れ
む。乃人乃妬を猜。善事ハ云隠され。惡事ハ見露され。言重りて。却て君乃疎
を猜心。屈して怠を生む。三ハ睡眠乃怠なり。終日乃動仕。心倦はれ。夜ハ不覺熟
寐。君乃傷を怠なり。此三事を能く慎む。何卒君乃御意を練り。若宮の出来
させ。乃計ひ。む。と。教訓。い。れ。三。人。乃。如。骨。身。小。徹。り。と。忘。れ。く。感。洞
小袖をひ。慎り。領掌。是より。三新宮。互。小。妬。之。恨。む。心。を。慎。り。相。助。て。太。子。小。奉。仕
し。只。顧。出。塵。の。御。望。を。断。し。も。ん。と。計。む。然。亦。彼。淨。居。佛。ハ。先。小。老。病。死。の。三。苦

を以て太子乃道心を勵し。今三人乃新宮心を竭す。太子乃春情を誘を
天眼通。見。く。太。子。と。三。女。乃。色。香。亦。な。れ。道。心。怠。り。心。を。疑。り。伸。通。を。以
て。太。子。乃。心。小。出。遊。せ。ん。事。を。思。ひ。む。是。亦。依。て。太。子。野。外。小。出。遊。多。不。し。思。言
鳥將軍を召れ。丸久く。宮中。小。在。く。稍。氣。爵。を。生。せ。り。依。て。郊。外。に。遊。人。を。殘。思
つ。御。意。乃。大。王。小。奏。して。勅。許。を。願。ふ。命。ト。鳥。將。軍。奉。り。王。宮。へ。奉
り。太。子。外。遊。乃。御。望。有。り。然。亦。王。乃。淨。飯。王。曰。く。先。小。太。子。乃。意。を。慰。心。人。を
外。遊。を。勸。ふ。老。者。病。者。死。者。有。り。却。て。太。子。乃。心。を。憂。ふ。乃。是。河。者。乃
障。碍。を。る。事。を。と。む。其。ハ。も。是。朕。ハ。只。太。子。乃。出家。学。道。せ。ん。事。を。怕。り。乃。り
然。も。も。太子。乃。外。遊。せ。ん。思。を。遮。り。傳。ふ。忍。み。を。汝。眺。望。し。野。外。小。行
宮。を。造。り。太。子。を。伴。ひ。官。人。小。と。俱。小。守。護。し。猶。五。十。里。乃。外。東。西。南。北。小。一。子
人。乃。禁。兵。を。置。く。其。不。虞。亦。備。へ。り。太。子。國。を。潛。出。せ。ん。と。せ。遮。り。道。ハ。先。上
且。外。官。小。命。し。道。路。を。灑。掃。し。老。病。死。ハ。不。更。なり。臭。穢。不。淨。乃。者。を。ハ。在

いりる更かたれ。今般太子の心を憂へむる者を置か決し刑戮を免さし
嚴小令一子鳥將軍慎が宣言を奉り退去して月景城小回り太子小湯
勅許乃むむむを言上。百子小令して城北乃眺望所小行宮を建し先
小不日小して造管成就しれを御遊乃致残る方かた。城外五十里四方小平の
禁兵を屯せむく不意の備をた。準備十分綱を其旨太子小啓白し是小
依る悉達太子鳥陀夷をた。重男童女を將り月景城を出む此般
八寮乃御馬小召し城乃北門より郊外乃行宮さして安せむむ三新宮ハ後宮
嫁女を従へ車小乗り随逐ある鳥將軍ハ教導と先小進新小宮行宮
小結入り酒宴を催し妓樂を奏して慰進せり太子ハ逸樂を好むむがれ
ハ女時ありく鳥陀夷以下十余人を従へ野徑を道遙し遠邊を眺望しむ小
一大樹繁茂し其下小平博なる石有る。青苔緑の纏を布る如くなれ太子
甚く愛しむ鳥陀夷亦を顧り曰く汝達ハ此所小待よ九八彼石上小甜て風

景を眺るべく唯入寛く歩む彼樹下石上小端坐しむ小静小思念して之御坐
ナと其河浄居佛化して一人乃比丘となり雞髪して法服を着し右手小錫杖を
策左手小鉄鉢を把り来る鳥陀夷以下の者ハ瞬ゆせと太子の動止を守れと
由曾く此比丘を足る事か唯太子の御同ふなり向く曰汝ハは何者ぞ浄居
佛答て曰貧道ハ是比丘なり太子曰何なる比丘とや答て曰餘又子夫婦乃愛着
を新輪廻を離る是を比丘と謂り太子亦問む何故愛着を捨輪廻を断や
答て曰一切衆生皆五濁の爲小身を汚し六欲の爲小心を惑はれ老病死の迅速
かる事を悟を生死乃苦界小沉淪し無上菩提乃快樂有る我不知我修學を
不所了如た色聲香味觸法小執着せし無漏聖道小心を遊し遠く苦の海を
過解脱乃岸小着無爲の都小到るなり。それ王侯貴人より以下一切衆生乃世小在
く小壁を一乃井裡小陥り半途小僅乃小草有る取着下以臨し主母竜口ハ張て
障子を吞入む勢をり上を望む惡虎牙を怒り上を喰ふ待たし上る小難



諸童子
悉達太子
諸國の物語
の図



淨居佛
比丘
悉達太子
無常と示
の図

く下る難く刺(カ)とさる小草まら黒白の角来て其根を食か如(ら)んむきき
珍宝及び王位乃貴も特(と)く。一(い)く無常の刀風(ふう)を遣(や)む悉く解(と)く人(ひと)の意(い)を
く去(こ)る太子(たいし)愕(おどろ)かして幼(わか)く悟(さと)りか(か)諸(しよ)天(てん)伎(ぎ)比(ひ)丘(きよ)乃(の)姿(すがた)と化(ま)り出家(しゆけ)功(こう)徳(とく)の廣(ひろ)く
大(おほ)く事(こと)を説(と)く示(し)すあふふこと善(ぜん)哉(さい)々々(々々)天人(てんじん)の中(なか)唯(ただ)無(む)上(じやう)善(ぜん)提(だい)の道(みち)勝(か)つる九(く)世(せい)言(ごん)て
此(こ)道(みち)を學(ま)び天人(てんじん)とも化(ま)り度(た)せん大道(だうだう)心(しん)茲(こゝ)決(けつ)定(ぢやう)し胸(むね)の雲(うん)霧(きよ)赤(せき)霄(せう)を新(あらた)小(せう)真(ま)如(にょ)
の月(つき)をさる如(ごと)く歡(こ)喜(ぎ)踊(おど)躍(やく)小(せう)勝(か)つる烏(う)陀(だ)夷(い)を近(ちか)く召(め)さる九(く)今(いま)只(ただ)甚(し)く樂(がく)しり
い(い)と還(かへ)る今(いま)と曰(い)ふ烏(う)陀(だ)夷(い)白(はく)君(きみ)と多(た)く此(こ)行(ぎやう)宮(みや)入(い)りせむい(い)ま(ま)手(て)日(にち)成(じやう)ゆ過(か)すふ(ふ)希(まれ)ハ
猶(なほ)暮(く)るま(ま)く御(ご)遊(ゆう)あ(あ)をむと勸(すす)められも太子(たいし)頭(かぶ)を振(ふ)む(む)否(いな)樂(がく)極(ごく)を(を)く(く)早(はや)く
帰(かへ)路(ろ)を促(すす)せよと仰(おほ)ふを烏(う)陀(だ)夷(い)已(い)更(ま)を得(え)む烏(う)將(じやう)軍(ぐん)其(その)昔(むかし)告(つげ)太子(たいし)を宮(みや)中(ちゆう)軍(ぐん)小(せう)
兼(か)なり。三(さん)新(しん)宮(みや)及(およ)び許(もと)まの宮(みや)女(にょ)前(ぜん)後(ご)を圍(かこ)繞(り)し終(つひ)小(せう)月(つき)景(けい)城(じやう)還(かへ)幸(か)り(り)なり
此(こ)日(にち)破(は)利(り)舍(しゃ)那(な)城(じやう)乃(の)好(こう)容(よう)夫(ふう)人(にん)皇(すう)子(し)を産(う)む皇(すう)を後(ご)小(せう)難(なん)陀(だ)太(たい)子(し)と申(まを)り淨(じやう)飯(はん)
王(わう)乃(の)御(ご)飲(いん)ハ(ハ)も更(ま)り。滿(まん)朝(てう)乃(の)百(ひやく)官(くわん)より末(すえ)を民間(みんげん)に(に)萬(まん)世(せい)を唱(な)めて祝(いのち)しりりり

悉達太子暗知檀特法臺

王(わう)乃(の)御(ご)飲(いん)ハ(ハ)も更(ま)り。滿(まん)朝(てう)乃(の)百(ひやく)官(くわん)より末(すえ)を民間(みんげん)に(に)萬(まん)世(せい)を唱(な)めて祝(いのち)しりりり
難(なん)陀(だ)太(たい)子(し)降(かう)誕(たん)依(い)て。王(わう)宮(みや)販(はん)ひ(ひ)も。独(ひとり)乘(ま)蓮(れん)太(たい)子(し)の(の)三(さん)郊(きやう)外(がい)小(せう)於(お)比(ひ)丘(きよ)乃(の)説(せつ)
を安(やす)む(む)より愈(い)出(い)塵(ぢん)厭(えん)離(り)の念(ねん)崑(こん)崙(ろん)の嶺(りやう)より高(たか)く。如(ごと)く何(なに)もて宮(みや)中(ちゆう)深(しん)出(い)で
人(ひと)の絡(ら)り草(くさ)の中(なか)十(じゆ)里(り)乃(の)更(ま)を和(わ)む。臣(しん)下(か)乃(の)息(いき)男(なん)の中(なか)小(せう)才(さい)智(ち)有(あ)るもの
疾(やく)呼(こ)聚(く)四(し)方(ぽう)乃(の)更(ま)を絡(ら)せむ。自(みづか)ら並(なら)び我(わが)心(しん)の師(し)乃(の)在(ざい)所(じよ)を知(し)るものありしりり
憍(きやう)曇(どん)彌(み)の御(ご)許(もと)使(し)をま(ま)れ丸(まる)此(こ)頂(てい)頻(ひん)心(しん)辭(じ)。絲(いと)竹(たけ)乃(の)音(ね)を中(ちゆう)常(じやう)懶(らん)心(しん)何(なに)卒(そつ)
緒(つ)卿(きやう)乃(の)子(し)息(いき)の中(なか)小(せう)才(さい)智(ち)有(あ)る者(もの)を數(かず)人(にん)召(め)寄(よ)む(む)其(その)亦(また)小(せう)物(ぶつ)結(むす)む(む)意(い)を
慰(なぐさ)む(む)と申(まを)す母(はは)夫(ふう)人(にん)使(し)む(む)是(こゝ)は(は)三(さん)足(そく)乃(の)脚(かか)心(しん)慰(なぐさ)なり(なり)しりり。王(わう)宮(みや)其(その)昔(むかし)
奏(そう)しりり。淨(じやう)飯(はん)王(わう)由(ゆ)理(り)小(せう)思(し)召(め)星(せい)光(こう)臣(しん)小(せう)命(めい)と(と)月(つき)卿(きやう)雲(うん)客(きやく)乃(の)中(ちゆう)小(せう)才(さい)智(ち)有(あ)る
息(いき)男(なん)乃(の)擇(たく)せむ(む)小(せう)即(すなは)ち十三(じゆし)人(にん)を擇(たく)出(い)して。太(たい)子(し)の宮(みや)中(ちゆう)進(しん)せ(せ)りり。太(たい)子(し)大(だい)小(せう)

悦ぶを以て其童子ホを御前小聚。昼夜種々の物語をせせり。見童們
ハ真ある事小思ひ己が隨思見聞事。成城虚誕とてせり。多小は結
々。太子ハ唯出離の師を需ん。多小を便かれも。つら小出るを向か。自
然世小洩る。宮中成潜出を妨小成せん。不如更小托く其緒を曳出せん。小ハそ
まわぬ体小く。衆童小對仰多小。いふ你達天地の回小住り。の生く。生る者
も皆九が如く。心々小友を聚遊中。んと仰出されむ。一人の童賢が。とてヤヤ
さん皆をれく。の友成得遊いなり。然も亦品々易る事。の先龍ハ諸虫小
しく。諸虫と鱗牙をり。と。麒麟ハ諸畜小。と。諸畜と脚躡をけ。と。祿と
中。然も是等ハ情をれ者。かれ。友を公。己々情を見ん。小ハ半時。友
を離れ。人ハ萬物ハ靈。心を公。友。心の合さる。友とせ。と。然ハ我を
あ。んと欲せん。其友をん。と。古ハ聖ハ。と。語りぬ。と。一人ハ見童進出
禽獸の上。ハ。形を公。友。と。事。論。但。人間の。上。於。心を

友とま。更信了。親子兄弟形容ハ似。心公奇。を呪他人。心ハ奇。人ハ
有。其。人。我。心。我。友。獨。慰。者。有。難。先
の童子曰。是ハ頑。心。心。人。上。論。吾。ハ。道。ある。人。上
を論。後。の童曰。其道。ハ。如何。更。や。言。の。序。小。承。り。ん。と
と。先。の童子曰。吾。ハ。精。ハ。不。知。也。及。多。程。ハ。語。い。な。り。そ。れ。世。上。道。と
稱。る。者。數。限。り。と。魚。先。文。道。筆。道。音。道。絲。竹。の。道。歌。舞。の。道。陰。陽。算
數。天。文。地。理。或。ハ。弓。馬。軍。戰。の。道。其。余。ハ。枚。舉。小。遑。あ。む。是。等。ハ。尚。技。藝。の
道。を。れ。且。真。の。道。と。号。さ。る。心。を。友。と。ま。道。中。所。謂。賢。道。明。道
聖。道。の。三。道。なり。賢。道。と。謂。ハ。護。心。報。謝。の。道。也。金。仙。の。修。も。所。明。道。と
謂。ハ。明。始。驗。者。證。家。の。秘。吏。承。る。借。聖。道。と。仁。義。撫。育。の。道。小。也。國。土
安。全。の。大。道。なり。此。三。道。の。ま。あ。り。も。學。究。一人。を。真。の。人。と。す。り。と。各。後。の。童
又。曰。聖。道。ハ。世。有。更。維。也。知。所。り。唯。賢。道。明。道。と。道。を。不。知。也。何。國

小いやると曰我も往く入むといふ或人の予より此國の天門に當り行程二千三百里を隔る擅持山の峯嶺より雪山医王六黎山音龍統多羅大伽陀山如毘羅阿私屈陀般若山僧婆羅育陀金剛胎めん衆の法の峯はく見賢道無為の神仙心を友と行きて住ま亦鬼門に當り一千二百五十里の行程を隔阿育山阿私陀山喜羅々阿闍部妙見臺戸羅六河羅優鉢羅山と乃靈山有皆是明始驗者乃行ひて名を所なりと及なり是亦て尚世小なりとやんやと言語とてかく説を後の兒童言向小結り赤面して口を開く太子は始より二人の回答を寄居むひが幾心修行の名山を歩むひ心中御喜悅限なり是去りかざり緒天丸が絨心を憐み此兒童小純と語り歩むと感慨しむひかざりさあやぬ跡を仰く実の跡は物結を歩むの如但一千三百余里の行程大陸はくたふや海路ふやと向ふ先の童子曰五百里大陸野道ゆく民家もいり五百里六谷川道とく或大河或は函谷ゆく漢夫山賤乃撫ハナレふ在るも甚難

路のり。三百里山道ゆく尤嶮岨のり承り何心か語り多々太子とて歩りむひ諸小難く是や出離の先達なりと心ひらけ収りむひ諸童子は芳ひむひ汝達の物結ゆく日未の前を暗しぬ今宵は夜も更されむ亦と来りて語り慰めんとそれく小賞衣を賜ひ御ひる下されむ諸童子は小悦ひ君恩を謝して宮中退出する

悉達太子出宮中赴擅持山

其后太子は彼兒童が回答を胸中小紀都城より天門嶮乃一千三百里彼方ある擅持山小登登幾心の師をとも年月の宿意を遂むと思召ども淨飯王の法令厳く假初の御出遊小の數多の官人前後を圍繞夜四門の守衛固るを宮中我潜出せし便り心かざり春と暮れ秋と過已小御年十九歳成せむひる太子頻小御心苛ち斯く宮中在る何何成道の時存る好む此上ハ又大王夫人の貴意小背とも一度擅持山小到ん心強も思召維をうりひ

宮中を潜出せんと人々心を附く窺ひ申す智才小勝ま貞操又類なれ耶
陀羅女小勝る今をい一夜更蘭人定り後太子耶輸陀羅女を御身近く
御平日よりも則じく御物結ありて借仰出されハ一樹の蔭小宿り一河のなま
成汲も一世にぬ奇縁と実増く況九と御身と夫婦となす更因位ハ契深され
かり然も御身小丸が一大事成明頼る義あり承引なれや否と曰妃ハ色成正
是ハ改をも仰る自國を本河より命成君小も故卿乃又母同胞を成由顧ふ
君乃御為かたの焔の中も入水乃底も赴た侍を何更小丸仰を背けんとぞ
答る太子悦ばせ其赤心を六何を包むた丸ハ普通の人小変り母夫人の
胎内不在と三年小中ハ萬の若悩をんせまうと出誕乃後七日小実乃母君
ハ逝去ぬ坐を其善提を吊以具一切衆生を化度せん為小出家学道乃望ま
年なり然も又大王姨夫人の慈愛小あされ今日まハ黙止され丸已ハ十九才
今出離せんとて何時を期とえ依て今宵宮中を潜出んと思へり御身潜る別

路と宮門成用丸を伴ひ出り思入仰され妃小胸塞りける御望あれを
こそ先頃御母夫人の微細と教訓し御身乃浮沈此時なり太子乃御心小
後を御母乃御恨を受ん母公の恨を受んとされ太子乃御心小背く小至る是ハ
如何せよと思困り西の眼より湧出る泪泉の如何と答人約ふなり只平伏し泣
居ひこれ太子乃気色を損ト御是ハ言甲斐なれ心小此宮中丸が言を背
中た者ハ御身乃と思ふととる一大事を告れ其を猶承引とある七
生の契を断丸自出せんと突然と起り成妃急小抑留是ハ如何なる御
更と也誓言なり一約を争う背けなれ遮莫此宮中小赤り新宮小備りハ名
中一度も哀成ともふならまひを今飽ぬ別をなす小御又大王御母君乃
問ふ人何と言とよも潜出ひ成知らるる心小自を責恨せし
と中も有く甲斐なれ玉の緒の絶ぬぞなれ恨なれと亦伏沈くとと泣
太子中其心中を察し御衣の袖を沾し御衣の袖を沾し右乃手の風指中妃乃

懐を指かひさか深く歎かひと丸御身と枕席に交されども今日より三年の後必
然男子を産む丸葦心修行のうちに自然死去する遺孤とすの慈育は長
物結を人小はせき覚られぬ悔も更甲斐有まじ早くと忙をよめど妃
唯夢小夢人心地あはれ是非なくも局々の扉を開け曾浄飯王に通小
余何所の扉を開くも其たる音官中官外は音くや小造せむひを
も此夜限り此の音せざる不測なりも太子妃の教導小隨ひ殿裡
を潜出する女官女童を顧み小或公樂音小倚卧或八調度小これ熟睡せ形
さかしく木偶の如くも粧飾し顔の足はせられ唯革囊小臭穢を盛強
飾小紅彩を以て薫らるる香草成以せのりかれ最浅猿とあはれむひつ
幸しく官外へ出むひ耶輸陀羅女を顧み曰偕老の契是まぐり丸修行
の功を積正覚成道せ再び相見る期あふれも老女不定の世界夫々豫期
難丸小を母夫人小能々仕孝貞忘り更なれも早立出んとあふ人を

妃忙しく御衣の袖をさぐり着君御一人何國へ行むを山刀樹乃を見まぐり
代伴ひむと口絶絶も入る位より太子首を振むひ執着無明の扉火宅小苗
て此殺心を焦せり信心の安婆を出るの劍煩悩の絆を断り淨刹小到る
歎たせんより疾宮中へ回り夜明後丸が行方を人問む唯あはれと答むと心
強袖を拂ふ妃猶も泣く放ちむかれを羅殺の御袖と裂裂妃の
手小より太子扉を引く其ま既小到り妃片袖を身小添く声成
まど泣むひが斯も果なれ更なれ泣き起上り局々の扉を開く
鎖固自の国小只紅洞小れ心の内を痛くしるる斯も太子扉小到り車
匿太子の馬のや在と呼ぶ其御声車匿が耳小雷霆の如くはるると答ふ其依
起出太子扉をより太子扉を引く其ま既小到り太子車匿小對むひ丸小首
あまを健勝を曳よと曰車匿培發た時今深夜より出遊しむるは何の子將
亦四竟太平無事小逆敵の寄るふゆ何の科小御馬を召さむと怖る



悉達太子
檀持山
おきり
おきり
おきり



悉達太子
檀持山
おきり
おきり
おきり

難なる太子氣を苛む小賢吏を中者か你をたゞ之無常の殺鬼攻
来る更速かり丸一切衆生乃為小是を降伏せんと由り更を言ふと
健陸太子のを率出せよと責む車匿猶中首を振大王の勅り太子
夜中出遊せんせ烏將軍小給其後禁門守衛乃官人小告よ
此旨小背く者罪九族を夷ぐと嚴しく命よ先烏將軍小達し後
御馬をもちるを敢て承引む太子甚く憤りぬ你尚馬を率どと
丸煩惱の結賊を降伏し手始先你を殊を辱しと佩空劍御手成け
む心車匿戦栗し叫ぶ守衛の兵を呼人となれも不側や一声叫ぶ能く
茲小於己更を得む寮乃駒を牽出して進せむ太子色成和げむ手
網をくちゆり乗る率方門と喝令し車匿亦躊躇して曰君知るや大
王兼太子乃宮中を潜出む更成慮む二匹小命し城門の閉閉を度其
きる音成て四十里小言くす小造り且數尋の監牢を置り時をり小守せ

むを争う暇く出せざるや太子是をばひく天を仰り長歎しひ嘯呼丸志
願茲小到く空しくあるやと白と等く空中小淨居佛をち緒の喜垂来降しむ
神通力を以て城の北門を開せむ固一大門已と開れぬ一点の音せむ
監牢亦熟睡して不知茲小於太子歡喜踊躍しむ車匿を厲て城外へ出む
城門の閉閉の如く閉たり太子の宮殿を顧み獅子吼し誓て曰我若不斷
生老病死憂愁苦惱不還宮又復不能轉於法輪要不与父王相見若當不
思愛之情終不還見母夫人及耶輸陀羅女と斯る誓言成之年月任別ひ
金殿玉樓を捨思愛乃又母妻妾を不顧駒をを々々擲特り率領を
絶つ地獄に是は何の為ぞや唯一切衆生の煩惱を救ひ極樂淨土に接せん
との大慈願なり難有る御幾心お右を緒天の感應まり太子の
御馬の前持國長同増長廣目乃四天王先迎し惡の障壁を以て其
他羅刹天風天火天水地陽天金剛明王梵天帝釈迦羅密淨光天飛行無辺自

在天竺の諸天太子の前後を圍繞し。神通力を添ふ。馬車匿も我も。雲
が踏霞を分。陸野道谷川道山陽道を唯一夜。圓をちくと。地夜乃明方。八座の
高山小着せ。妙の多。八不測と。以。中。疎。り。り。り。

悉達太子純遺物車匿

斯く太子山中の平なる所。馬を立。遠近を眺望し。山小。同。れ。ぬ。奇。樹。異。草。早。露
茂し。香風吹。そ。よ。れ。く。四方小。薫。じ。霧。千。仞。の。溪。を。埋。む。雲。萬。丈。の。嶺。を。覆。ふ。寂。莫
無人の場。を。れ。ぬ。御。心。清。々。く。歡。喜。小。勝。を。る。を。車。匿。を。顧。み。仰。々。と。如何。や。車。匿。承
れ。十。善。万。兼。の。位。も。唯。是。夢。中。の。栄。花。み。ひ。く。く。千。花。万。花。眼。前。の。塵。埃。を。増。て
や。愛。執。亡。念。八。煩。惱。乃。新。す。く。無。明。の。猛。火。焼。く。人。更。必。せ。り。豈。そ。ろ。あ。ら。う。と。と。と。
曰。く。も。車。匿。八。宮。中。成。出。し。より。我。か。く。我。を。ち。ち。と。と。忙。忙。と。て。有。無。の。答。を。な。し。と。と。と。
く。る。所。小。人。の。足。音。ま。え。を。れ。嬉。し。や。人。を。来。り。と。れ。檀。特。山。往。る。道。を。向。へ。其。方。小
向。の。待。と。く。く。来。る。人。を。見。し。小。身。軀。枯。木。乃。く。く。鬚。髮。八。雪。を。欺。た。木。葉。を。編。く。身

小纏の朽木乃枝。炭。束。を。杖。の。ひ。く。肩。か。り。り。手。小。異。乃。花。を。竜。を。提。り。其。形。體。を
く。く。塵。俗。を。離。れ。ぬ。太子。声。を。き。け。む。以。我。が。徒。深。た。志。願。あ。つ。く。檀。特。山。赴。く。者。之
願。く。八。路。を。教。む。と。曰。老。翁。情。と。太子。主。臣。を。見。て。眉。を。頻。耳。是。八。胡。乱。乃。者。ど。も。う。無
道。無。慚。乃。姿。ゆ。く。何。國。より。迷。ひ。き。り。なる。と。抑。此。舉。と。纏。む。濁。世。凡。夫。乃。通。る。所。小
あ。ら。と。三。藏。別。教。乃。靈。地。ゆ。く。八。思。八。智。乃。声。聞。八。四。諦。十。六。行。相。を。な。し。又。何。四。門。通。行
乃。道。なり。發。心。十。地。乃。緣。覺。八。三。世。別。行。乃。修。行。を。な。し。十二。因。緣。乃。悟。を。證。し。因。位。果
位。三。昧。三。乃。道。を。行。ひ。む。又。緒。乃。菩。薩。八。四。智。田。滿。六。波。羅。密。乃。戒。行。を。修。し。淨。淨
堅。固。行。ひ。む。と。又。妙。乃。三。摩。耶。形。乃。靈。場。無。上。菩。提。の。妙。領。な。り。汚。穢。不。淨。の
形。ゆ。く。馬。小。乘。鞭。を。揚。ぐ。踏。あ。ら。と。と。八。言。語。小。絶。せ。り。惡。人。な。り。疾。く。下。下。と。喝。令
と。太子。受。む。ひ。く。札。を。絶。し。丸。無。智。乃。凡。夫。ゆ。く。さ。る。靈。場。と。も。と。と。不。敬。の。罪。八。怨
む。先。中。乃。如。く。丸。心。小。大。願。有。く。檀。特。山。小。合。登。り。發。心。修。行。乃。師。を。需。人。も。王。位。と。捨
く。此。所。を。く。来。ま。り。願。く。神。仙。隣。を。垂。り。檀。特。山。登。る。乃。道。を。教。む。と。曰。老。翁。羽。皮。て

你志ハ健気なれども不淨ノ凡体を以テ檀特ノ法嶺へ登人ト思ハルも然
なから遙々此所ニ来リ志ハ志ハ志ハ志ハ行程ハ教得サレテ是ノ是ノ是ノ西
十里ノ上ノ空臺其嶺乃東ノ白雲林麓を周リ金光曜ク靈山ニシテ你ガ導
る法嶺カレト指示シテ往過リ太子女阿ト引苗玉ハ斯祥ノ教示ハ神仙
ノ法名を承リテ向ク老翁ナリ我ハ是跋迦仙人ナリト答ハ驢然ト
ルニ往過リ太子御悦喜アリ車匿を勵馬乃口カトテ御身ハ歩も馴
ル山徑を杖カモヒケタラセ云痛クシク今今今假初乃出遊ハ七宝
ノ宝鞞ヲ傳レ爾後從乃官人非常を糾草乃上カ踏カシテ御身乃
未世衆生を化度せん為岩石我々山ト今登カハ五彩ノ糸履岩頭ノ為
小破生玉ノ清丸御足ハ血汝ルマ路辺乃草を朱小添カシカ車匿ハ
足ヲ不堪ク御馬小乗セカト勸カレ曾テ肯ドカシテ痛ク足を曳クナ
嶺深クニ入吏所ハ一人ノ童子出来リ太子を足ク大ハ孩ハ是ハ何國ノ

来リ者ト云此山ハ七佛出世ノ未前ノ阿けタリ顯密二種ノ靈地ハ牛馬ハ云
カ更ナリ凡俗ノ通カレ所ナシト北雪山ノ峯續カ南ハ陀陀淨嶺カレ嶺ハ
ト三條ノ法灘滔々ト落林麓ハ二流ノ靈河漫々ト流ル加ニ漢ハ正覺化生ノ昔日
蓮華ヲ時を無シカ花ノ嶺を過カテ我我心門修行門苦提門涅槃門本覺
門等學門真如門トハ正道ノ秘門ナリカレ不淨結界ノ法地也ハ三心具足セ
ル者ハ合登人ト思ハルカ強ク登人トシテ正法守護ノ猛獸ノ為カ服
サレテ人疾々ト回リト云捨林麓を去テ下リカ太子ハ是ハ仙家ノ童子トシテ思
ハル猶精々行程を尋問人ノ御声を上ク呼返シカモ耳ハケテ疾風ハ
往過カレカセカ再歩を勸カレ所カレ嶺ナリ入ノ仙人下リ来リ金剛
杖カ太地ハ衝カ太子カ車匿を嚙ト白眼大膽凡俗ハ不淨ヲ身ニ以テ何國
ハ往人ト云カ罵リカ其眼ハ光星ノ如ク雷雨ノ女カ車匿ハ肝消魂飛カ路
上ハ蹲リ顔色カ来カ太子ハ公然トテ孩カカ袖カ合見テ礼カ

大迦陀國迦毘羅城の王淨飯王の息男悉達なり一度發心修行の大願を發し
宮中を潛出當山未まり願くハ神仙丸が微志を憐み檀特山の行程を指示し
仰々小仙翁冷笑して曰你志ハ健氣なれとも五逆罪乃身成空し争う檀特法嶺に到
るつた太子曰く丸生より以來生靈を殺む人畜成困む神仙何ぞ五逆の罪人ハ曰く
と陳じ小仙翁培怒り曰你母の胎内ハ在り三年行住座卧小苦患を与ふるも無量
かり加之降誕し母を殺し刺へ大恩の父の意小背れ慈育の繼母を害三人の新
宮三千乃女官四門護衛の監事ハいさむく怠慢の科を及せり是十惡とも五逆と
由發言多れ大惡人なり且其身小纏る衣服ハ億萬の虫を殺せし糸とて織り
木生草を枯く漆なりたる不淨乃衣瑠璃玉帶ハ盡く人力を疲勞せしめて造り段
たる汚穢の具なり奈何ぞ衣鉢とも汚る無上正覺乃靈場小到る事を得た
し眞實發心修行の志あるを懺悔滅罪して不淨の衣帶成脱捨從者を追ふて
檀特(到)と云らるる身を翻して森林の中へ入ふる太子仙人乃絨を穿て

悟ハ車匿を顧て曰你九か劫を背む宮中成扶出是まは後未り志とて
神妓なり然も今如く仙家の法令あれは你是より馬成牽て回しつゝ佩
七宝の劍を解項上宝冠を脱髮中の名珠を把り授け此三品ハ父大王小獻し
告須彌山より高れ大恩を捨出家得道しこそ不孝の罪大いれも母ハ耶夫
人解脫乃為且一切衆生老病死の四苦を救ふ為なれ宿させむと謝し
よとく亦瑠璃を解御衣玉帶を解て曰此瑠璃ハ今の母公献り多年慈愛の
深恩を謝し丸が正覺成道し都城小還り再び見ならんまは遺物小んおとす
よ亦此表衣玉帶ハ耶陀羅素与丸が更を念とせとて又王母夫人小孝行をな
りしゆとすよと悉く遺物をこころ遺言成託しむ車匿ハ路上小は供する言成
幾し得ざるごとく涙を拭く太子小對以下官君の御幼稚より仕し御出
遊し小室鞏小添龍馬を牽二千余里の當山まは隨從し今更争ふ此所
小捨ちりて回りのを俯願くハ發心の御望を断都城還幸あつて大王お

后宮新宮の御歎をよめ玉ふ君を御心可ゆるごとく只何國をも召具し玉へ
下官と君を捨たり都(回)り大王其罪を責む刑戮を加へ玉ふと
口鏡に涙を察の御馬健陵の膝を折耳成垂黄なる涙を流し頼小悲の聲
を並殺し別を惜まざる形かたを並る太子八道心を動し玉ふと聲を厲して曰くや
お母車匿承れ丸が母公の出産後七日お母と薨じお母子と猶別離あり況を
主臣をや死別生別豈異か丸が父大王八慈慈弟一の聖主なり丸が故を以て何ぞ
你が珠し玉を由り更を中より疾々遺物を持し回ると曰くも車匿猶中
御袖おとろし引く玉なる太子はみ於て一の方使を廻し室劍お御手成り汝斯
不しお利害を解かぬはみけと猶抑留して大願を妨ぐ玉ふや丸宮中を出し回し
里とて慈悲心修行成就せむと誓て宮中より又王母夫人お見まじと誓たり你を
具せし檀特山お至ると能くも到むと志願お空くか今劍お仗り死をなれ
かりと曰くお抜放さんしお車匿大お改め御手を抑しは誤りなれり御遺物と賜り

都城(回)り免さむと謝するも太子より劍を捨むしお疾回し玉ふ
学道成就せむ你も健陵も成佛得脱せむと心強く跡お振捨檀特山と今
登りお車匿八足を翹り御後影の足えぬと見送り玉ふ声の限り泣叫し玉ふ
かさお上り泣き御遺物を馬の鞍お結付綱の牽を馬由太子の御背と
顧みし數声嘶け涙を流すと雨の如く車匿倍感慨し情を歎類と御別を惜
むと馬の首お抱着玉ふ雨と泣き果てられ玉ふ已事を得玉ふ主かれ馬を曳
き愁を回し殊勝の中亦哀かりたり

迦毘羅城騒動車匿献遺物

却説迦毘羅城お其夜明く後宮の嫁女平且の如く朝浄し太子の寢殿おあり
んお例ハ子お臥寅お起しお今朝日お高く登りたるお尚帳を垂る音お
せられ玉ふ是ハ御不測の心強た三新宮お斯と告お耶憐陀羅女其身お
心苦し思ふ尚お顔小歩登り増てや鹿野瞿陀涌の二女お殊更お

三女ひくく寝殿へ入るる錦の厚衣をぬれぬ唯是腕の蟬の如く更ふ太子在
かれを各恫果く強まひ是六何國へ行幸なりと殿中の間をく扇をふるる
搜しされと見えぬ益致た強き情曇弥夫人小斯と告何を強たむるなる
其後其所小伏声を幾く泣く是は二新宮より千の妹女五百の童女一
舟小泣怨む形勢天人の五義を怨む一般く鳥將軍ハ斯とばより狂気の如く其身
殿中が池廻り捜せも御影ふれぬ太ふ氣を奇鳥陀夷を以て王宮を奏聞させ
自身ハ四門の監卒を檢り外吏下司が改むる小車匿と捷段見えぬ諸ハ馬上ゆく
潜出させむいふと忙しくして居る鳥陀夷を息を限り小王宮へ馳参り太
子宮中が潜出させむり傳奏小就く奏を浄飯王是を皮むと等く苦く
叫ぶ昏倒し女官近臣致た強た急小藥湯をまき及抱か進む内三天臣より月
卿雲客追々傳く馳参る吏絡繹して引申たを迦毘羅城中の強動鼎の沸小
異かると上天下と来り浄飯王六時より過くよ息吹入む御泪泉の如

く更ふ人更を弁むる休れぬ三大臣やま大王太子が追慕し御慮を悩む
ハ御理を遠く往り早く又追人の兵馬をむひけ還幸たりなりか
と口か揃へ練りなるを浄飯王より睿慮を鎮む先月景殿へ御幸なり
と。密鞏小乗せむ官人是は早く先を進む諸臣御後不随く月景城へ渡御
かをも情曇彌夫人ハ二新宮を從へ龍駕を迎へ玉座へ請り龍顔小對ひ
より左方御約り唯伏せ泣く大王の龍津泪をとりて女問ハ紹
かりしを稍あつ御衣の袖小洞を挿み以て朕無くより太子が出家學道乃志あると
知る新宮より妹女兒童小至る太子を忘りか守護を乞ふと命す何
故不更ふ及ぼる知ある。風野瞿陀弥乃兩新宮大も悲入洞を止く奏り
妻亦まくの女官と俱其終日夜終夜太子の左右侍り。些も怠りぬ夜
宵より耶輸陀羅女寢殿へ参り。と多小物結む心安くかひい何何の程
ふ潜出せ入る積くハ耶輸陀羅女不更問せむと答もより大王より耶輸陀羅女

小太子の行方を向ふに妃自ら導きたり。更かれども今更明白の告ぐて面を赤めて
 中より八妾夜に寝殿を赤り。四方八方の物格をい進せしむ。小何是の書よりきき
 よと仰言ありふより。御前を多く書車の中を尋搜し。幸して探出。献りしむ。小
 丸此書の中不就て考る事あり。退て後刺きしむ。日あり。退きて寝殿の在の向
 小侍ひ。小平目あり。睡萌し。我を多く夢を結て宮中に出せしむ。知侍を怠り。罪
 謝し。人言の葉のいを速に刑せしむ。とせしむ。大王歎息し。小新宮妹女を怠慢
 乃罪煙く。と。金是云甲斐か。女重なり。四門乃監卒。何ぞと太子が深夜不出。と知
 かり。と。鳥將軍を多く。嚴く。結同をせしむ。四門守侍の者も。恐ま。入前夜。小限
 睡眠萌して。堪ぐ。思を多く守侍を怠りしむ。八臣小。退せしむ。此上如何。を。嚴科。を
 行を多く。口。を。多。鳥將軍を多く。此。昔。を。淨飯王。を。思。を。か
 ひ。此上。又。追兵を多く。向。二十萬。乃。馬軍を。東西南北。四道。小。分。太子。乃。御行方
 を。尋。搜。し。り。多。此。更。も。民。間。未。も。多。く。見。え。老。若。男。女。大。小。不。殺。た。食。を。怠。り。業。と

捨ろふ奔走して泣叫声。四境を穿て走る許あり。斯く數日過り東南西三方の追兵を
 手放空して回り多し北方に向ひ兵車匿と捷徑を牽き回り王宮の廣庭に曳居て
 云々の旨を奏達して淨飯王車匿を見かひて逆鱗はよく如何や汝無く朕が命を
 法令を守ると太子をて城中を潛出りし今何の顔有てり至りて馬を牽き回し
 る。其罪牛裂衣を多し飽くを多し太子は何國へ去りて速に行方告ぐと
 責む車匿恐る奏を多し。下官前乃夜熟睡し。小深夜呼覚と声あつて雷
 霆の如く。維中を起出り。心と思ふと太子を渡せしむ。疾捷徑を牽き
 日下官最不審。夜深夜を。御出遊乃時。將又太平無敵を。征伐し。多
 逆後。を。い。多。何。の。科。ふ。御。馬。を。召。れ。し。と。難。し。多。ひ。小。太。子。曰。く。你。を。多
 也。無。常。の。殺。鬼。責。來。る。と。速。かり。九。切。衆。生。乃。為。小。是。を。降。伏。せん。と。早。く
 馬。を。牽。き。し。責。む。下。官。尚。も。大。王。乃。法。令。乃。嚴。か。る。を。中。鳥。將。軍。不。通。達
 甘。後。御。馬。を。多。し。人。と。中。も。敢。て。省。し。む。と。十。針。尽。く。守。侍。乃。監。卒。を。呼

人為声をよき叫んといふも声出され止こと成得也。寮の御馬を曳出して進
まらば太子早く馬小召ま後小續よと仰り乗出し。ま百來小似むと健陵一
声も嘶せ。喜ゆ鈴も取鳴り。さうも大地を踏車々と龍馬の蹄も只空とむ
歩む如くおひいた尚をれより不側なり。兼て閑閑乃音甲里の外小音く城
門已と閑をくやの音もせとせり馬も下官ゆきて急ぐとゆいぬ夜の明
る頃小八座乃雲山お著以後小承り心此都城より翼おわろと。一千三百里の
行程を隔。檀特山の端山より是凡更小いむと緒天乃威神カもく太子を送り
まひ小をと。恐る奏しこれ大王より。后宮新宮緒御まも半信半疑ひ
只黙然する許なり。稍有く日光臣車匿お向ひ你太子お随従し。さる遠境に到る
何と捨置なり。鈍々と回り来るやと咎む答て曰さん件乃雲山に到りいひ
仙翁仙童もく出来り此山谷鉢几夫乃来る所なり。疾を回ると喝いとい
太子敢て屈し。まると密劍玉冠髻中の珠を解き。曰く此三品大王お敵り。九か字

道成就し。再び龍顔を拜し。ももく遺物おんむと奏し。不孝の罪を謝し。もも
よく仰せ。又瑤瑤御衣玉帯を解ひ。瑤瑤お母夫人小も。是ゆ不孝の程を謝し。も
表衣と玉帯、耶輸陀羅女遺物おとす。去去し。下官御袖をひへる
深山小争り君残し。ぬれもも願ひ。悲心の御望を捨て。王城回り。まも尚
還幸乃御心く。心何國まも召具し。まも。再三再四願もれ。留り許し。おと你強
く丸く意お背れ。悲心修行乃妨成。まも。今劍お伏し。死をいなり。こは小密劍お手
をり。おまも。已事成得む。領掌。御別を告げ。まも。面りい尚。緒天乃加護。お馬
も下官も。生を飛。まも。一千三百余里を不目。回りなり。唯何更も天カお。罪を許
まも。まも。法々御遺物を捧ぐ。れ。健陵も。膝を折。涙を流して。悲し。げ。小。嘶。る。橋。曇
彌夫人耶輸陀羅女車匿。物結を歩。ひ。遺物乃品を。白小。抑當。まも。惜。まも。法。まも。
と。並居る女官緒臣。まも。俱小。愁。涙。を。止。まも。浄飯王。何と。思。召。入。突。然。まも。坐
成。起。まも。や。れ。車。匿。其。馬。是。一。牽。上。し。紹。車。匿。まも。是。ハ。何。乃。料。小。御。馬。を。召。まも。

小や心小縫り傾めも幸得ど。月光臣大王小對以君今馬を召て何國御幸か。玉
 と向する王声を響く。て宜く世上の親心貴も賤も子我思の者やある形醜く
 才拙れ子成が。愛慈なりけり。増て況朕が太子三十二相八十種好具足せ。耳
 たり。天文地理等數書画舞樂弓馬射。以萬藝小達。一智古今小秀。筋力
 天下小敵。然る今虎狼蛇蝎の。極る深山幽谷小入。道を修む。豈是を
 他小ん小忍んや。太子在る。博論王乃位北斗を支る。富も何やせん。朕も其山小
 分登り。太子と俱小道を修。艱難を一致。一死生を交。月と。宜旨ある
 月光大臣色を正。曰是。如何方。勅。披。君此國を捨む。惡惡賢王。下り連綿
 たる血脈断絶。博論王位他人乃有。と。萬代の末。不徳の。遺。よ
 たり。臣熟考。小太子学道乃。脚望ある事。朝夕の義。小。故。奈何。と。れ。ま
 耶夫人御懷妊。乃。相者。が。世。勤文。と。小太子降誕。乃。四。瑞。應。現。七。步
 小。獅。吼。乃。金。言。小。三世。子。達。四。弘。誓。願。緒。法。塵。内。天。上。天。下。唯。我。独。尊。と。曰。ひ

一。成。以。て。の。世。榮。を。樂。む。さ。も。更。明。り。且。十九。才。小。か。在。女。色。を。親。着。玉。り。と。御
 出。游。乃。路。上。小。老。病。死。乃。相。を。示。さ。る。と。總。不。側。の。更。身。一。今。亦。車。匿。の。奏。さ。る
 を。以。て。考。れ。城。門。已。と。開。れ。二。千。三。百。余。里。を。手。夜。乃。内。小。到。り。更。緒。天。の。擁。護
 なる。更。疑。か。假。令。深。山。幽。谷。小。住。一。更。も。猛。獸。毒。蛇。の。害。を。加。る。更。能。ま。し。俯。て
 願。く。八。倍。慮。を。者。む。以。太子。乃。御。運。を。天。小。任。一。学。道。成。就。と。か。つ。せ。更。阿。郎。を
 待。せ。む。と。約。を。錫。して。練。々。淨。飯。王。其。練。奏。小。睿。慮。弛。と。小。実。汝。が。十。所。由。理
 かり。故。夫。人。の。夢。想。と。以。是。追。乃。奇。更。を。考。れ。太子。朕。が。子。小。して。朕。が。子。あり
 と。真。小。佛。菩。薩。乃。再。生。か。る。と。然。も。朕。尚。愛。慕。の。念。を。禁。む。る。更。能。り。と
 朕。年。已。小。老。小。臨。之。難。陀。い。ま。幼。く。余。小。王。位。を。讓。る。る。者。か。是。を。奈。何。と
 う。と。ん。月。光。が。白。難。陀。太子。御。幼。推。け。れ。も。聰。明。睿。智。か。れ。太子。小。を。よ。ふ。と。由
 難。う。不可。かり。と。づ。れ。且。大王。い。ま。衰。老。一。更。も。何。と。ま。の。睿。慮。を。煩。ハ
 ぶ。た。れ。と。日。光。星。光。と。も。小。種。々。練。奏。一。々。を。素。り。賢。明。乃。淨。飯。王。臣。下。の。練

小随ハ御幸をまゝりおとすも猶も睿慮縹々として智勇勝まゝ臣下五人を擇出し糸穀結帛を下官の運せし車匿を教導して遠く擅特山に到せむとも雲霧遮り隔て登る吏能はれも衆人空しく王城を圍り斯と回奏し多う小を大王后宮新宮とも大い望を失ひ其身の宮中小在せむも心擅特の嶺を通ひ天津空しく鳥を羨む風雨霜雪も付ても御衣乃乾くひまかりたり実や上り怨りた生別小増者ありと右世より言傳へん理なりと知まらる

悉達太子於擅特山師阿羅々仙

却鏡悉達太子車匿を圍ひ心細痛む御足を曳擅特を志しとなり行り小弱前も茂林小著む息吐り林中を足入むを緑苔むを岩乃上り端座結印せし老翁あり頭小須彌の雪を頂た面小滄海の波をたす木の葉衣を身小纏ひ眼を閉り寂莫たり太子心小思ひ是必も我心の師なるべしと徐々として入草の上小座し稍久く待居り斯く一時余あり老翁眼をひり死

太子を召し曰何者かれ不浄の肉身あり我が靈場へ来りしを太子言て曰九八中天竺七伽陀國乃至淨飯王の子悉達にて善く我心の修行の天願を懐れ口中と潜出師を求人為遠く當山未き願く八神仙乃法名を承り人老翁曰我を擅特山法性淨臺不行ひると阿羅々仙なり你女年其志八神效なれとも恐るく下根凡夫の身難行苦行捨身行をたす遂る吏能まゝ只速小を回し太子曰九庸愚ありと魚学道の為小身を抛無上菩提の旨を究一切衆生の生老病死の四苦成救んと吏を欲し心如何なる難行を修し願く八神仙九を徒弟とて無為の女道を授けし身を平伏し阿羅々足を礼し仙翁曰然を你が其撮る衣服を脱捨仙家の草衣を著せしと茅萱の葉を編綴し一衣を乞ふ太子悦び著たる羅敷の下衣を脱て漢投捨得る所の草衣を乞ふ御身小を以て仙翁見たり色成和げ善哉女年你我が徒弟となる六父母の号たる凡俗の名不可まゝ今日より瞿曇沙弥と呼ぶるなり勤て薪水の勞を乞ふ仙家の戒行を持しと命と太

子緒て又向むく。仙家も戒行と何かる妻をう行いぬ。阿羅漢が曰先如法戒律定戒
心地無為戒不生三昧戒六根清淨戒此五戒なり。是より三つ別行する。阿羅漢戒每小
十戒あつて五十戒とかり。五十戒又一戒每小十戒ありて五百戒とかり。其五百戒又一戒每
小五戒ありて二千五百戒とかり。是を自律戒律戒如律戒と号三種持戒の仙法と
し。二千五百戒の中戒めて破らる。破戒無慚の罪人なり。無為の修行なり難し。你
幾心修行をやり遂んと欲せむ。慎て持戒せよ。食肉提樹乃菓日小三粒を喰を
一粒を増喰こと。戒許さざると。嚴小示一教。先菜を摘水を汲きこれよと。藤
造する笹と大なる瓢と飲とたり。太子師乃命と受林中を出て山成四り東西南北
戒尋求せよ。敢て菜わらむ。猶普く尋廻りせよ。遙く溪小若菜生と。是れも絶
壁屏風を立ると。如く下る。便なれを。忙しく傳まひ。師乃待とひ。又と
恐を樹根小と。藤葛を手繰てよ。下り若菜を摘と。て。匡小入亦切岸を
攀登り。あまき。羅綾小纏。荒れ風小あり。む。身乃。悪所を登

又更かれ。荊藤乃為小手足を刺。樹根若頭小肌層を破られ。雪より清れ。脚
肌小。童子。血小。痛。太子。屈。若。間。小
小又溪川。下り。瓢。水。汲。雨。種。携。林。中。回。師。供。阿。羅。漢。仙。是。と。令
中。瞿。曇。水。汲。入。浮。水。乃。法。の。菜。を。摘。小。三。持。の。道。あり。你。心得。菜。を。摘。水。を
汲。き。向。太。子。曰。弟。子。い。ま。是。を。不。知。只。師。命。小。後。取。来。り。阿。羅。漢。仙。勅。せ。と
色。を。設。て。曰。夫。水。小。赤。竜。青。龍。白。龍。三。の。至。有。雨。露。を。絶。草。木。生。雲。是。小
依。て。生。育。と。更。を。得。不。何。を。猥。小。汲。滅。と。上。三。業。中。三。業。下。三。業。と。号。け。金。剛。輪
正。教。論。持。明。論。此。三。昧。を。修。三。龍。乃。德。を。謝。て。後。汲。を。た。り。亦。菜。小。陽。性。陰。德。現
成。と。三。の。性。命。あり。因。助。業。三。昧。雜。業。三。昧。正。業。三。昧。以上。三。昧。を。修。三。光。論。を
を。報。し。橋。是。敬。命。乃。供。養。なり。然。る。小。猥。小。摘。取。と。無。道。と。不。法。と。云。人。カ。を。し
破。戒。の。罪。思。ひ。ま。れ。と。喝。し。遮。那。金。剛。杖。を。お。り。太。子。乃。頭。上。肩。背。乃。嫌。なり。下。々。と
擊。と。し。り。傷。れ。疲。れ。を。ひ。太。子。若。と。叫。び。什。也。を。阿。羅。漢。仙。尚。由。連。多。小。擊。手

阿羅々仙人
悉達太子
波半懲と圖



悉達圖會卷三

三十一

程ちか何なに久ひさ以もつて堪たんぞ終つひに呼よびよ息いき絶たるる仙せん人じん些せも孩わくく気き力りき太子たいし乃すなはち巖いわお腰こしをたけ
稍ちか久ひさ座ざ禪ぜん一いつ念ねん不ふ起き滿まん虛こ空くう中ちゆう木ぼく未ま滅めつ白はく道だう阿あ字じと唱となへん浮う水すい乃すなはち法ほふをたけ太子たいし
乃すなはち白はく毫ごうをたけ浄じやうち持も明めい乃すなはち法ほふをたけ胸むねをたけ温ぬめ善ぜん哉やい々々瞿こ曇とん沙さ彌みとよ呼よびよ太子たいし乃すなはち
と息いき吹ふ及および玉たま以もつて夢ゆめ乃すなはち覺さるる心こころ地ち一いつて起たり玉たま阿あ羅ら々々仙せん微ゑい笑しょう一いつ你なんぢ已すでに生なまをたけ
今いま塵ちん世せ乃すなはち汚けなり瞿こ曇とん沙さ彌みをたけ改かめ照しょう普ぷ比ひ丘きゆうとよ呼よびよ諸しよ此こ杖じやうをたけ你なんぢをたけ
是こゝハ遮しや耶や金こん剛かう杖じやうと号ごうす胎たい金こん兩りやう部ぶ乃すなはち功こう德とくをたけ慎しんて持もせ玉たま授まけ太子たいし息いきと
謝しや一いつ敬けいで杖じやうを受う是こゝをたけ持も玉たま奇き多た哉やい是こゝ身み躰たい健けん小せうをたけ玉たま以もつて御ご身み乃すなはち先まと放はなち
ち闇あん夜やとよも能よ明めい小せう虫ちゆう乃すなはち這まくく足あしのちるる一いつ念ねん愈い信しん心こころ膽たん小せう銘めい遮しや耶や三さん昧まいをたけ二に六ろく
阿あ中ちゆう急きゆうをたけ勒りやく如に斯しく亦また或また時とき師し乃すなはち薪しん乃すなはち高かう峯ほう小せう攀ぱん登とうく朽く木ぼく乃すなはち杖じやうをたけ推おし東とうね
金こん剛かう杖じやう小せう乃すなはち法ほふ臺たい擔たん回かいり玉たま阿あ羅ら々々仙せん喝かくて曰いは夫お山さん小せう四し神しんあり所しよ緇し正せい明めい神しん物ぶつ心こころ養やう
神しん虛こ幾げ神しん洛らく磨ま王わう神しん是こゝ乃すなはち萬まん木ぼく千せん草そう以もつて射しゃくくて國こく土ど小せう利り益えきと故ゆゑ小せう謝しや耶や謝しや礼らい
緇し磨ま加か陀たとよ四し種しゆ乃すなはち法ほふをたけ行ぎやうひ四し神しん乃すなはち德とくをたけ拜はい謝しや一いつ而しか後ご小せう枝し葉えふをたけ推おし玉たま乃すなはち

一いつちち衆しゆ小せう你なんぢ猥わい小せう貪こん乃すなはち獲えのちをたけ此こゝ木ぼく乃すなはち是こゝ朽く木ぼく乃すなはち我わが行ぎやう乃すなはち虫ちゆうのち拙せつ久ひさ小せう心こころ乃すなはち切き取とく
殺ころ生せい戒けいをたけ破やぶり玉たま淨じやう無む上じやう乃すなはち杖じやうをたけ上じやう連れん小せう三さん十じゆう杖じやう擊げきをたけ太子たいし亦また疼いた痛いた不堪ふかと成なり倒たふす
一いつ絶たつ死し乃すなはち阿あ羅ら々々仙せん亦また尸し乃すなはち背せい乃すなはち上じやう結けつ跏か趺たふ座ざ一いつ三さん時じ乃すなはち向きやう法ほふをたけ修しゆ一いつ其その後ご胎たい金こん剛かう
乃すなはち印いんをたけ結けつひ天てん地ち内ない外がい六りく根こん清じやう淨じやう魚ぎよ量りやう壽じゆう覺げつ般ぱん若じやく波は女にょ羅ら密みつと唱となへん初しよ阿あ樂らく乃すなはち印いん
をたけ結けつひ胸むねをたけ摩ま手てとよ三さん度ど一いつ善ぜん哉やい々々照しょう普ぷ比ひ丘きゆうとよ呼よびよ太子たいし再さい回かい生せい玉たま以もつて
拜はい伏ふくして罪つみをたけ謝しや一いつ玉たま阿あ羅ら々々仙せん色しきをたけ和わけ玉たま三さん度ど生せいをたけ換かへ身み神しん清じやう淨じやう乃すなはち
更さらを得え玉たま今いま淨じやう無む上じやう乃すなはち杖じやうをたけ讓じやう玉たま乃すなはち授まけ玉たま太子たいし歡かん喜ぎ一いつ玉たま以もつて
と斜しゃ乃すなはち此こゝ杖じやうをたけ得え玉たま以もつて根こん清じやう淨じやう六りく神しん通つうをたけ得え玉たま以もつて身み光こう照しょう勝しやう乃すなはち
小せう阿あ羅ら々々仙せん大だい乃すなはち賞じやう譽よとよ照しょう普ぷ比ひ丘きゆう淨じやう光こう佛ぶつとよ呼よびよ太子たいし深しんく師し思し
をたけ謝しや一いつ玉たま以もつて頻ひん小せう道だう心こころをたけ屬じやく一いつ五ご戒けい十じゆう戒けい五ご十じゆう戒けい二に百ひやく五ご十じゆう戒けい二に千せん五ご百ひやく戒けい乃すなはち
乃すなはち近ちか赤せき心こころ持もち一いつ戒けい乃すなはち破やぶれ玉たま行ぎやうひ乃すなはち玉たま是こゝ乃すなはち草そう衣いをたけ脱だつ自じ然ぜん乃すなはち木ぼく衣いと
号ごう一いつ朱しよ陀た羅ら樹じゆ乃すなはち葉えふをたけ重おもね玉たま藤ふじのち系けい乃すなはち綴ずい玉たま法ほふ衣いをたけ看かん一いつ玉たま斯し乃すなはち如に

く身命を抛ち阿羅々仙小仕へ檀特法嶺小昔行い其より三年乃月日を送
望まむあむあむを未世の衆生を利益せんとの大慈願の最難有御更かりり

悉達太子於般若臺師伽羅々仙

斯く或阿羅々仙太子小對ひ此三年が間晝夜乃修行懈怠けれより五濁
乃垢も去五逆乃罪も消く。実母上耶夫人得脱し。上夏乃仙女と産是遠小ハ帝
釋天乃后妃小備るる。你正覚成道乃後自坐相見する期有ふ此上無定
乃室般若法基小到り。伽羅々仙を師と。無為学道乃秘訣を学究し。精く
教導有るを太子欣悦し勝むる。年来乃高思を謝し。別を告ぐ檀特を立
出かハ般若基へ公登り其小伽羅々仙無く是を知半途小出迎照普比丘き
る更何を遅やと呼りり太子發れ小忙しく跪く仙翁乃足を礼し。偕ハ伽羅々
仙小くはせむと願くハ無為正覚乃妙道を教授せむと曰ハるを伽羅

々仙白。你照普我ハ此道場の戒行ハ頭密秘密清浄密とく。三密瑜伽乃修
行中。言結不及妙典を甚く行ひ安らむと汝と行ひとるや否やと問
太子拜伏し其弟子法味を其小く世栄を欲せむと無為学道の為小く
身命を抛ち如何なる難行成り修いハと答む伽羅々仙善哉と賞し。室小
伴ひ照普を改く妙舍利仙と呼。緑乃御髪を剃るハ藤の太布の法衣と与へ
儲教く曰此所乃修行ハ因位果位三昧とく。三品乃行ひ亦虚空無為涅槃無
為真如無為とく。三無為乃行ひ亦不變真如実相真如。隨縁真如とて三
真如乃行ひあり。以上三々九品乃修行不可説不可得の心地小く其修行最難なり
仙食ハ六阿蜜蘭樹乃菓木檀子と号する者を一日ハ一粒服し。一滴の水成り飲こと
成許まじ。此峯より巽の方三里彼方小巽なる嶺を大伽遮那山と号其山小靈泉
あり。妙法泉と云り其滝乃源小金剛窟石と平なる石あり。これを坐禪ハ林と
し。二百日坐し乃修行敢く起り成許まじ。二百日坐ての修行敢く坐する更

を絆さど。二百只伏ての修行敢て睡眠を絆さど行乃内ふ思念なく。行乃内ふ言結
 なく。行乃内ふ心なく。是自然不生乃行相なり。慎で怠るまふれと指示と太子師
 命を領掌し。大伽遮那山小攀登り。滝乃源を尋く。金剛宝石の上小到り。三密
 乃行入。入痛うひふ日小木檀子一粒の他。水をぶ飲む。されむ。白玉乃。こく
 たり。御肌。日小黒。風小荒。唯枯木の。く。瘦衰む。ひながら。三伏乃。其の日も。冬暑
 成忍く。苦行。嚴冬の。雪乃。夜も。寒苦を。堪。難行怠。を。精神を。属。行
 む。多。む。ひ。多。余。りの。困行。身。射。倦。疲。を。思。ひ。を。睡眠。を。催。む。ひ。多。何。國。よ
 里。とも。なく。二人。乃。天。童。き。り。睡。居。む。太子。を。な。く。曰。是。か。る。汝。彌。ハ。法。衣。を。身。小。經
 以。坐。禪。乃。林。小。在。ふ。く。無。明。乃。睡。魔。小。犯。され。戒。行。を。破。り。多。く。是。法。賊。に。い。ざ
 や。縛。人。と。い。ふ。終。小。太子。の。手。成。背。さ。る。小。捻。曲。黒。丸。繩。を。強。く。縛。ぬ。太子。強。く。覺
 む。へ。猶。渠。が。せん。中。成。人。り。と。目。を。閉。く。居。小。童子。ハ。繩。乃。端。を。傍。か。る。枯。木。の。枝
 小。く。く。鉤。上。鉤。下。と。其。度。と。小。太子。ハ。腕。小。折。折。る。如。く。疼痛。小。堪。く。絶。死。む。ハ。天

童水成灑ぐ。蘇らむ。亦呵責さる。更以前。信と太子。余りの。苦さ。小。声。を。發。して
 身。の。罪。を。懺。悔。せん。と思。召。さ。る。亦。思。ふ。不。多。師。乃。緘。小。行。中。言。を。發。さ。る。更
 成。禁。じ。む。む。それ。も。可。ど。う。や。法。乃。為。小。責。殺。さ。る。と。何。を。露。路。の。命。成。惜。な。れ。と
 猶。も。責。苦。成。忍。び。て。さ。り。ま。し。と。天。童。相。う。り。て。曰。此。汝。彌。ハ。法。賊。の。あ。ら。む。と。其。の
 修行者。なり。今。ハ。縛。を。免。得。ま。さ。る。と。樹。上。り。鉤。お。ち。し。繩。を。解。く。坐。禪。の
 林。小。置。進。せ。何。國。とも。なく。去。小。り。太子。初。て。悟。む。ひ。是。緒。天。丸。が。懈。怠。を。緘。む。ふ
 小。こ。と。と。天。童。乃。後。を。礼。拜。あり。倍。精。心。を。属。難。行。苦。行。乃。多。く。三。年。小。及
 たり。伽。羅。々。仙。太子。乃。勇。猛。修行。を。な。く。續。歎。し。你。已。小。信。心。堅。固。小。戒。行。せ。り。此。上。ハ
 雪。山。小。到。り。毘。羅。林。志。仙。前。陀。羅。大。師。耶。仙。二。人。乃。道。師。小。事。く。正。覺。成。道。せ。し。你
 小。此。二。菩。薩。授。を。と。く。法。論。宝。錫。杖。妙。真。乃。伽。薩。如。意。を。授。説。く。曰。此。錫。杖。ま
 解。化。衆。生。乃。功。德。を。こ。り。是。を。策。と。し。毒。蛇。惡。獸。害。成。加。む。緒。由。音。を。出。す。道。に
 避。を。ん。足。下。小。殺。生。戒。を。破。む。と。如。意。ハ。神。力。自。在。の。法。菩。亦。て。虛。空。飛。行。の。功。力。あり

是より雪山赴く小廣野道谷川道山頭道々種々の難道より信力堅固り
く到りぬと教示され太子歡喜斜方より師恩を謝して雪山赴むひたり
天女靈鬼生因位々善惡應報

斯く太子六伽羅々仙小別々左不如意を把右小錫杖をばれ鳴して廣野道々徑
よ小密音の功德あり躰健小足輕く歩むこと駿馬の走るより疾己小若手
乃路を逼む所小念出南方より黑煙渦卷来り焰頻小燃立上漸小近くきり
小何更中んと停まんと小奈乃中より無數の餓鬼頭々出たり其形黑瘦く
枯木の枝の如く骨を露し腹の大大く眼色憔悴し々るが太子を拜して怨念の
声を出し紛る事有が如く太子憐れむひ一念不生罪福無主本来空無我緒法実
相一切有為法如夢幻泡影如露亦如電應作如是觀と唱む不測や猛火急並
と消く五色の祥雲と變り無數の餓鬼と見え々る由端嚴微妙の天人と現り當
来作佛曰生佛果と曰音小唱光を放り虚空より太子ハ此瑞應を見大歡

喜かみ猶も安ん進む一場の墓原小出むいごある堆の墳の前小端嚴乃
天女香成焼花を供り礼拜し居り太子不思議小思召其故を問ふ小天女答
曰ん此所ハ彼方小茂る杜の中なる小部伽耶の市乃墓所小我身ハ或市人乃
子中くいひ小二三年前小死去曾り世在り三室小供養一六親小孝順乃
眷族を惠み憐れ其福力小依り上天乃樂思小生を受緒乃樂を極め是を
前生乃善心乃を所方小此古墳乃下なる因位乃形小香花を供り小答
太子答るる感歎しむ其所を過往小所小亦堆の古墳乃前小頭の惡鬼在
り墳を發れ土小荒し古骨を取出し眼を瞋し焰を吐けは啗碎れ亦探り
と小推れ居り太子見むひ何れんか小惡業をなとると同小惡鬼位
答り曰我ハ前生小部伽耶の市人なり生得愚心痴邪惡小今生りる鬼畜の生と
人の養ふ小侮り親小疎疎を欺れ其惡報小依り今生りる鬼畜の生と
受日夜緒乃苦思をなむる是を因位乃枯骨も恨り斯の如く墳を發れ骨

成碎れいかりと各太子嗟歎いひ善悪徳報の速なること如斯恐るり
金剛合掌しおの生れ去来即是如夢諸法從本未常自寂滅相故以善惡不
二邪正一如自然真無為と唱へた伽薩如意を一度揮ひて光明虚空に赫々
靈鬼も天女も歡喜し太子を礼拜し光と俱に飛去り斯く太子其所かも還て
道成忘れたる程に稍雪山に近づく覺く岩頭氷凍白刃乃如満山雪に埋
まると銀世界も溜をなす寒風肌骨徹り冷氣皮肉を裂むりたれど踏歩に
びく女内樹下は停立し少し天の淨居佛太子の心を屬さんと二人樵夫となり
推柴を擔ひききうをなす太子悦びいひ如何山人是雪山に赴き修行者あるが
あまりの大雪お前前後を弁せ何卒雪山に登るる路を教てと仰るる樵
夫笑ひ曰不惜身命乃汝門に是なるの雪は何ぞ往煩やそれ此山は諸天擁護
の嶺なり三光秘事の若乃道緒佛正覺の其堂なり三の峯は高き微妙
不斷の法を示しなり汝跡をたや金剛力の方便ハ聲も更ふ動も更ふ長

夜の燈かりと虫己身の月明かりを雪こそ王の光をれ魚鱗ハ氷成るる極とゆひ
餓鬼ハ氷をんく焔と天人ハ氷をんく瑠璃と人間ハ氷をんく水と是成四見
不同と謂り其如く此雪も外道ハ寒た雪吹とんく手足凍五昧とんく惡魔ハ刀劍
とんく魂を消し心成恐む佛菩薩ハ法の英とんく下化衆生の慈怨成垂とん
是成法地の三見と謂り屬や修行者も雪吹おまされ失えを太す忍ち悟
いひた河菩薩如意成揚く虚空を指業雲無碍如虚空本虚隨怨た河四頭
行と觀む身の光り忽ひけ身軀の凍忘られ行歩心の隨ふり溪を超奉
を攀遂く雪山の法基たより看む脚歡ハ限り

耶輸陀羅女生若官

却説大迦陀國如毘羅城の太子出塵の後まがも淨飯王憍曇彌夫人其他
新言女官百司百官下萬民も思ふ語出怨心の洞袖成朽さぬ人かた申
ゆゑ衣も痛くは耶輸陀羅女の御身のまかり太子別離不臨其懷と指

三年の後丸が種を生ざりて仰せも別離の怨ふすれおろけの妻の思召
々々の二年冬乃頃より何とぞ心地例をぞ目増胎内小物ある如く竟ひ
心を困らむとも人小云ふをともよも緘とせしと深し包も隠しおふはけも太子
の御事お志す遺物の御衣と彼片袖を身お添へ唯帳内小引籠り世は夏物
小敷たらしむらち衝く御腹ゆるふなりと包とをぞ女官童女亦是は知此所
彼所お寄ごころひちろ絡合さるる太子宮中を出おひり已小許妻の月日お
はるふかく重れ身おなりお何者お方ごま如何なる草の種申人おはさるけ
お云おへと思ふは此道おとと唇言やと此妻と月景城おこれなり耶論陀羅女
密男ありと此頃孕おひり其六維の渠と云觸果は橋雲彌夫人のはさ健
是は異の風統の自然大王の譽お達し御不審を蒙るを何とぞ陳とて心
強おひ耶論陀羅女の新宮お到おひ人を拂ひく密お懐妊の虚実を糾しお死
只顔お紅葉とらむおれお各お中お包むとれと甲斐なりと斯とらるる

何かく隠しおる太子いま宮中お出おさる以前護心修行の望あるとてお結おひ久
しうとて宮中お潜お出おる丸おらる人後又大王お母夫人より事よと教訓おひ
右手の指おく妻お懐を指おひ三年の後孕と有る男子を産るは是丸が遺子
かれを慈と育よと仰おれも只御別乃怨し小緘しお思もらむと口官お出離の御望
お止おられも遠お諾おて宮中お潜お出おせおひぬ其後お深お敷おふれお其
御別お志お侍し小年月お心地例をぞ目小増し身重かりとておおらぬ憂
名とて呼まぬる身の怨心お推量せむと結り身お伏しお後お橋雲彌夫人おひ
奇異の思をかり手お信し小疑おしとて其より奏おとせしとて自乃御坐お回らせ
玉ひ鳥將軍の妻お成おく耶論陀羅女お物結の中お妊娠の妻を巻おさせお浄飯王
御りお玉ひ太お推者おく未生お前より衆の奇特おれをさる不測乃妻絶おけり
と云難おれも三年の月日お移りお妊娠する妻疑ひおれお宮中お出入する男の子
を乘心く結問おとせしと命しお鳥將軍の妻王命を領掌しとてお回り夫人お斯

と達しんを耶論陀羅女仕る女官なり。三新宮仕る者を一人は召寄り向し
物弁ぬ女乃かひ己が随思より言成すれを実言とも虚言とも紛然と
今も言ふ。せんとなつて捨置きたる小臨産の時きり。王乃如た男子降誕あふ
羅睺羅尊者とて此君なり。太子世小在る密位を受剛玉ひの御子なる満朝
乃百官緒乃王より慶賀の使者門前小市をなると。此小維有て是れ祝する者な
く。却て種々小純縹しる小を耶論陀羅女乃心く。世成あがたれた物小思
ひ弥引籠り居る心ひとらふ若君を太子乃御遺子と撫傳憂が中なる樂草小
生し。まふふたも他の人さ思ふを主ふたぬ捨種と無下小見わ。はやく坊
来る人小たれ中ふなりとて。世小云甲斐なく明暮し。まふも。あはれ此若君乃成
長し。お公母子亦連いある深山幽谷なか尋ね。一度太子小見ぬ。まふ。んと。せまふ。これ
ほふ。あはれ。あはれ。月日を送り。まふ。御心根を痛り。うらまふ。

悉達太子苦行雪山降魔軍

再後悉達太子八嶮岨絶壁を徑り雪山乃法臺小安と看ふ所小一人乃異人樹下小
端坐し。妙舍利仙我你を待こと久しと呼り。ぬ太子此人を見む。心長須髪悉く黄色小
て。兩眼乃光り明星乃如。顔色薄紅なる木の葉を藤乃糸とて編綴たる法衣
穿ち。手小一條乃如意をとれり。太子思ふ。是れ必が禪羅梵志仙なる。座して
袖を合せ。礼拜し。ひの仙意の如く。弟子小妙舍利小願く。神仙無上正覺の教を
示し。まふ。と曰。仙翁。曰。善哉。妙舍利。我こそ禪羅梵志なり。抑此峯ハ諸天守護乃靈
地也。東ハ九織本覺臺。西ハ法性妙覺臺。南ハ妙織等覺臺。以上を雪山乃三臺と
り。不惜身命乃難行。をとうと。常參日中。放參と。一日三行あり。遮那金
剛部三昧。般若蓮花部三昧。寂靜佛部三昧。と。三業九品乃勤行。一日由懈怠と
る。く。免さ。と。三臺より臺ま。く。十里乃行程。あはれ。合せ。く。三十里。偕此室を。まふ。北
真禪定臺と。つり。朝小出。夕小此室ま。回り。夜ハ石上小跏趺坐し。定心淨心寂
然心。妙真心。真無心。此五定心を煉。く。諸天小飯會。せよ。今日より。妙舍利を改。く。雪

山園利と叫ぶるなり。一点帝怠慢の心を生むる更なれと教諭。臆あてて虚空を歩と去ふなり。太子其後を礼拜し。此は是より日々小三業九品乃勤行をたし三堂を行ひ廻り。其道路悉く雪降積寒風乃厲し。此更天地を覆ふと許。あ一日中白日をみる事なく。氷凍く剣より中丸岩角を踏み行廻り。あこと日々小四里。夜北其堂小四里。坐禪乃牀小睡を凌ぎ。終夜緒天小取命し。此より火を焚され。一滴乃湯を求む。使申す。増て一粒乃食もあらず。と魚渚天緒佛乃守護小依て。室小回す。温ふる香風吹き。しりし。御身を温め。食を断む。と氣満つ。餓小臨み。心不乱。行ひまるとを。此より三十三天の中第六天小魔王在る。遠小下界を直下し。悉達太子乃雪山在る。昼夜を捨む。苦行し。此を日々。大小諸を彼斯く。信力堅固かれ。久く。正覚を得。此より。此を必と法輪を傳。切衆生を利益。佛法せ。熾小行。我が眷族彼を為困られ。遂小六道壊乱せん。と憂阿。樂まむ。此王小三人乃女有。

長女欲妃との中女と悦彼ら。女女欣快。親と。二女又王乃喜。色々々。其故を問。魔王其本末を説。三女歎く。曰。又王憂。此女は。妾小三人下界。下り。色香。以て。悉達を惑。淫欲を。其戒行を妨。ん。左大悦。此義甚。急。悉達を。命。二女領掌。玉乃瑤珞を頂。天花を。五彩乃衣服を著。飾り。妙香を。十二。下界。下り。夜中。雪山乃北。臺小入。太子を礼拜。曰。天帝君。多年乃昔行を感。下。上界の中。才智秀容。顔勝。者。擇。太子乃。薪水を扶。三入。其。擇。小。抽。此。茲。み。侍。と。媚。を。會。情。を。作。其。其。顯。脚。馬。其。如。其。顔。芙蓉乃露。を。含。如。如何。石心鉄腸。乃者。乃。香。色。乃。為。小。道。場。太子。八。心。動。自。若。定。心。を。煉。鬼。女。猶。其。行。を。妨。二。個。乃。至。金。菓。盛。成。太子。捧。曰。是。八。天。帝。御。園。乃。攝。菓。也。一。菓。を。食。者。百。年。の。齡。を。保。十。菓。を。食。者。千。歳。乃。壽。を。延。仙。菓。也。

君小敵り、延年不老なり、所方りと巧三小勸えども。太子猶美言を公と
 多年若行の功位ふらふ六神通を得む疾よ。至乃行道を妨人、障碍する
 を知む、如意を揚ぐ、外面似菩薩内心如夜叉と唱ふ、忽ち玉の音も草葉と
 かり盛る、仙菓も衆の毒虫と變じて、三女も花の面、霜の如、消醜惡の老
 婆となり、面皺と腰屈ミ多小、互小面を見合て、大い強丸本相、僕さんと
 多小の能れを周障狼狽虚空をきて、逃回リ又小獨して其惑、一々を告、魔王
 大い怒リ、其義なき、我雪山小至、渠が行法を妨人、罵多小、魔王小、男子有
 薩陀、号、諸般の神通を得、依て又、王小、滑て白、悉達行、力堅固なり、何
 程の更、有る、愚男、眷族を従、下界下リ、悉達を魏を拉、我、心修行を
 止、せ、小、と乞、王、其、詞を吐、なり、是を許、ふ、薩陀、悦び、衆の、軍を
 招、集、り、下、界、降、リ、雪山、乃、北、臺を、百、重、千、重、小、田、悉、達、早、く、王、宮、回、リ、搏、論、王
 乃、位を、踐、よ、と、猶、正、覺を得、んと、欲、せ、身、を、咬、吐、と、粉、小、せ、と、言、多、太子、一、言

動、玉、を、徐、小、四面を、入、む、無、數、の、軍、北、臺、の、四面、小、元、満、と、其、草、頭、牛、の、如、牙、ハ
 利、刀、小、似、く、身、肥、大、なる、者、あり、或、ハ、面、三、眼、小、して、口、より、焰、を、吐、者、あり、或、ハ、頭、三、臂、ハ、有
 る、每、手、弓、箭、刀、鎗、戈、戟、を、把、者、あり、或、ハ、洞、面、眼、小、して、口、血、無、ろ、如、く、一、身、小、生、む、毛、ハ
 鐵、針、の、如、く、なる、者、あり、或、ハ、丈、高、く、腹、大、く、鎌、の、如、丸、を生、ず、者、有、其、他、種、々、奇
 怪、乃、惡、大、牧、羊、を、小、遣、わ、る、大、焰、を、降、し、惡、風、を、吹、し、霹、靂、震、天、地、小、夷、丸、山、河、草
 木、震、動、て、世、界、も、目、前、奈、落、へ、没、と、る、と、疑、ふ、怖、い、あ、ん、も、跡、方、り、然、る、も、太子、を
 公、多、く、く、獅、々、乃、鹿、群、小、居、る、如、く、唯、是、小、兒、乃、戲、を、方、と、成、見、丸、如、く、一、軍、倍
 怒、激、し、近、く、青、膏、く、太子、を、殺、せ、んと、其、時、太子、微、妙、乃、声、を、發、し、諸、惡、莫、作
 修、善、奉、行、と、唱、ふ、心、不、側、や、一、軍、の、刀、鎗、干、戈、鉤、の、如、く、曲、り、用、る、事、能、く、箭、と、放、つ
 者、ハ、中、途、より、飛、回、り、却、り、一、軍、を、射、石、を、投、撃、んと、る、者、ハ、敢、て、手、放、離、と、火、を
 降、せ、ん、五、彩、乃、花、と、なり、毒、霧、を、降、せ、ん、香、風、と、變、じ、更、小、太子、を、善、む、る、更、能、く、と
 薩、陀、案、小、相、違、し、く、周、障、惑、以、眷、族、を、牽、く、這、々、第六、天、逃、回、リ、悉、達、の、行、力、當

かゝり紺衣王大の孫た斯て八叶と此般自身百千眷族を牽連く雪山降り
北基小迫著く窺ふる太子石上小端坐し身動も一むと亡王左手小鐵乃
大弓を握り右手小鉾乃如た箭五條を手校迅雷乃如た惡声を發して曰你悉
達過去乃福乃依く適淨飯王乃子と生な何ぞ王位富貴を捨無益の魚為
道成需此山中小餓死せんとも早く悟く出家法を捨故卿へ還りく縛論王と
かり宋曜歡樂を極ち又母妻子於て安心せよと猶迷をとりく正覺を
得んとむ我此二箭小你が命を斷がし你をくも梵天帝釈諸天神とのむ我が
弓箭を番をんく八魂を消し肝を落して怖惑り豈況你小於也只速小去去と
罵りぬ太子眼を閉く見む其文三文余小と雲小跋扈一兩眼赫々しく日輪
乃かへ出さる如く鼻後尋る山小飲く耳根まぐ裂る只血池も縋る上下四
十根の齒八劍を植るく疑れ鬚髮悉く鐵針小一般く其後小百千の眷
族衆の惡相斃尽るく各眼を瞑し身を咬ぶ善戒を再く隨り太子怡を

太子雪山小修行し已小六年乃星霜を徑るも詩陀羅大師耶小見
むされ如何も相見正覺成道乃與義を究ん心中願む例乃如三臺
を廻り法性乃峯小到所小還る溪底小虚空小響く大音あり緒行無常是
生滅法と唱り太子空く大悦は是平く無為成道乃要文より是成唱者
凡人をく察する小爾陀羅仙乃平年拜謁せざるをく雪を踏氷を分

太子雪山小修行し已小六年乃星霜を徑るも詩陀羅大師耶小見
むされ如何も相見正覺成道乃與義を究ん心中願む例乃如三臺
を廻り法性乃峯小到所小還る溪底小虚空小響く大音あり緒行無常是
生滅法と唱り太子空く大悦は是平く無為成道乃要文より是成唱者
凡人をく察する小爾陀羅仙乃平年拜謁せざるをく雪を踏氷を分

深溪乃底(尋)下(り)唯見其丈二丈(并)なる悪鬼八面(九)足(あ)つて眼中(火)の
如(く)只(紅)蓮(の)池(の)如(く)なる(岩)頭(の)腰(さ)け吐(息)焰(の)如(く)太子(些)も恐(おそ)む悪
鬼(小)對(く)曰(即)今(の)二(句)の傷(を)唱(へ)人(你)か(ら)う悪鬼(答)て曰(然)り太子(白)猶(あ)ま(り)の傷
有(や)否(や)悪鬼(白)猶(二)句(の)傷(あり)太子(曰)然(を)我(小)唱(せ)上(悪)鬼(白)往(古)圖(淳)
提(大)國(の)王(あり)名(を)脩(樓)破(と)号(富)天下(を)保(ち)財(宝)を(散)し(億)兆(の)民(を)
撫(育)と(然)も(只)是(世)の仁(惠)あ(り)久(遠)の恩(あ)ら(る)故(敷)正(覺)乃(法)を(説)か(死)
尊(師)を(求)む(毘)沙(門)天(王)其(心)を(察)し(化)す(夜)刃(と)なり(諸)の悪(相)を(現)し(彼)王(宮)乃
門(小)到(り)王(の)為(小)正(覺)乃(法)を(説)ん(と)呼(り)る(大)王(歡)喜(殿)上(小)結(法)を(受)ん(と)望
む(夜)又(曰)我(今)甚(と)餓(り)王(乃)置(愛)乃(后)妃(を)以(皇)子(我)小(食)と(食)と(あ)む
能(王)の(為)小(妙)法(を)説(入)王(是)を(拜)諾(即)ち(最)愛(乃)夫(人)乃(小)皇(子)を(召)出(り)と
夜(又)小(と)夜(又)即(小)王(の)妻(子)を(裂)食(以)而(後)正(覺)乃(法)を(説)り(と)受(其)如(我)小
腹(中)餓(り)你(我)小(食)を(与)む(残)り(の)二(句)を(唱)へ(と)太子(曰)你(今)如(何)なる(食)を

欲(ま)す(や)悪(鬼)白(我)唯(人)の(肉)を(欲)む(你)残(る)二(句)の(文)を(受)ん(と)欲(せ)む(我)が(口
中)小(入)く(食)と(れ)然(を)我(你)が(魂)魄(小)唱(と)す(と)る(太子)欣(然)と(て)曰(他)の
命(を)借(り)自(乃)命(副)更(あり)他(以)く(自)乃(命)を(貸)く(他)乃(命)と(副)こ
と(あり)自(以)く(他)乃(命)自(他)一如(と)悟(る)何(を)命(我)惜(む)を(死)と(身)を(躍)して(悪
鬼)乃(口)中(へ)飛(入)む(を)不(思)儀(や)悪(鬼)乃(口)利(齒)忽(ち)八(葉)の(蓮)花(と)化(り)安
坐(せ)む(り)生(滅)々(已)寂(滅)為(衆)と(唱)へ(今)ま(と)悪(鬼)と(見)え(は)る(も)忽(ち)一(と)と
雲(小)從(身)る(毘)盧(遮)耶(佛)と(現)し(太子)を(掌)中(小)居(り)法(性)室(其)室(小)授(り)なり(滅)之
我(小)惡(鬼)小(あ)ら(る)爵(陀)羅(十)師(耶)小(本)来(ハ)毘(盧)舍(耶)佛(なり)御(身)前(後)十
二(年)乃(戒)行(怠)り(小)依(り)今(已)小(正)覺(成)就(せ)り(早)く(世)小(出)く(天)人(俱)小(利
益)と(ま)く(合)掌(礼)拜(し)倉(平)小(虛)空(小)音(樂)空(を)五(彩)乃(花)降(り)十(方)三
世(の)諸(佛)三(身)五(智)七(佛)其(他)五(十二)菩(薩)諸(天)善(神)梵(天)帝(釈)四(天)王(天)龍(八
部)小(至)る(ま)く(空)中(小)遍(滿)一(合)掌(怡)悅(し)異(口)音(小)三(界)六(道)乃(教)主(十



八回九足の霊鬼

悉達太子之誡之旨の偶を授る圖



八回九足の霊鬼

方最勝光明無量三学無碍億々衆生平等引導乃能化南無釈迦牟尼
 如来本師本佛と唱へん是より悉達太子を世尊釋迦牟尼如来と八中もり
 たり然るも多年脚望の如く正覚成道一む三十二相八十種好の脚姿金光を放
 ち十方世界を照しむ十方世界より光明照して十神力を現し衆生引導
 直指成佛道の本願を充させんと難有れ斯く釋尊八真如法性妙覺堂
 乃上より三明六通を具足し三千世界過去未來現世乃三世を徹し小是
 より彼小生下彼より是小生下善悪の應報不隨以人間天上地獄修羅餓鬼畜
 生乃六道不流轉し死生の苦海不沈淪し十二因縁の受觸六入名色織行无明
 因縁よ愛永く覺む我と緒の苦悩を受る更を隣りむ我神力方便を以て廣
 く一切衆生乃此煩惱を救ふそれ三畏衆生八皆我が子なり衆生入地獄我入地獄
 衆生出地獄我出地獄衆生苦悩我苦悩衆生安樂我安樂と大慈愍心を發
 しむ十二年乃星霜を往く頃十二月八日曉乃明星を戴た初て雪山を立出む一

世小出山乃釈迦と唱へ字一なる此時の脚姿なり

三迦葉師釋尊

斯く釈尊雪山を出出む波羅那國小到り小女一餓小臨む天の淨居佛
 是を察し化して道士となり跋利村と云里小到り主人小習く曰陀陀國淨飯王
 の太子悉達婆心修行の爲小身命を抛て十二年今日正覚成就一切衆生
 を添度せん頓々這里を過む你亦供養しより無量の幸福を得んは伊
 れに主人悦び密教を綱く待居り多小程をく世尊きさう世小出山を主人見し見
 なる小光明輝た威相莊嚴世小類をれ歡喜踊躍く佛足を礼拜し敬く密
 教を献る世尊悦悦しむひなう受ふ亦善かれ心中小念しむり過去乃釋佛皆
 鐵鉢を以て食を受予中鉄鉢を以て是を受人如意を以て虚空を擊むを天
 上より四天王各鉢を捧り佛前小降り来る世尊亦念む予一王乃鉢を受か
 残る三王本意を失ふ不如四鉢も亦受人小と茲小於四天王乃鉢を悉く受四の鉢

を掌乃上置祈念一玉を忽然とく合して鉢とあり四乃重目のを残さず諸土人の
密教を受む以呪願して曰く三寶供養の施王當来亦く安樂无病多福長壽
来世少く八天小生下緒の快樂を受んと唱へ密教を喫し以て而して鉢を洗ひ嗽て土
人小三飯を授ふ二曰飯依佛三曰飯依法三曰飯依僧と土人亦隨喜の泪を流し恭敬
礼拜して去り斯く世尊ハ波羅那國鹿野苑於て四天王乃為小四締乃法を説
法輪を轉じ以てこれより鹿野苑を去り摩竭國を過り以て小日將小暮人々とこれ小
依く優樓頻螺が許へ之倚く宿を乞ふ此優樓頻螺といふ名を加葉といひて兄
弟三人あり俱小仙道を學び大事(神通廣大)を國王より萬民より崇敬する
師又乃如然も加葉心中小天が下小我小勝る者ありと自負し多小一夕年若た汝
我門小停立一宿を乞加葉送て是を迎へ入對面を多小三十二相具足せし好相をれむ
是凡人なりと思ひ向て曰你何國より何里通る者か多小世尊答て曰我ハ南伽陀國
乃主淨飯王乃子悉達なり曾く殺心善提の道を求め擅特雪山二山小難行する

十二年無上真正の道を得たり依く普く天下を廻りて一切衆生を化度せん
欲も然小今日這里小く日暮尊者の大名を更一宿を需みかり加葉亦更ら
諸小音小安ん一淨飯王乃子降誕の同緒の瑞應現れ學をてて諸般の技小通達
せし悉達なるもやまれも渠世栄を捨て善提を學其道迂遠く我も道乃真
なる小ハ不如く渠が行力を試んて世尊小謂て曰諸小名小高た悉達太子や
我御身の雷名を更更入天縁熟して相見をて何乃幸なり是小過人志なり
我緒房悉く弟子住し宿進を小席なり唯後園小一字の石室あり最廣く清
浄なるも一難あり其故裡小毒龍拙く稍もこれ人を害を我是を奈何とて
世尊曰毒龍在も若くを其石室を一夜予小借む加葉曰厭むること心の隨小
宿し或て錫小を世尊飲せし童子乃引路小從以彼石室小到り結跏趺坐し三
世我觀下脚坐する果して毒龍世尊を害せん身を搏て猛大を發し大焰を吐
石室を燒其大乃光天を衝く熾然れも加葉乃弟子亦達亦其大光をコケ大ハ

三如葉世小飯の
三如葉世小飯の
三如葉世小飯の



三如葉世
釋尊と
石室小宿と

紅印

該師所斯と告多れ加葉室を出大光をん手を拍て笑て曰隣を一汝誦毒龍乃為
小害せしむと急小弟子小指揮一石室の辺り小到り水が流れた火を消しむむも敢
く消され其後捨置り四りり世尊八猛火の殺り来るも動いむを編然と安坐し
かひ毒龍小對一喝一むむ毒龍怒ち僅乃小蛇となり働く更能く世尊是をうて鉄
鉢の裡に置三飯依を授り斯く天明及ん加葉緒弟子を後下石室小到りん小
石室已小灰燼とされも世尊自若くく在る加葉發た御身夜未毒龍の火を殺
成んをと向世尊微笑しむ毒龍大を殺りく石室を焼しんを焉を三り真正の
金剛鉢を燒支を得人予毒龍を降伏し已小茲有と鉄鉢の裡を指示しむん加
葉大の發た此汝が神通悔か然も我が道の真なる小不却とて別を告く本所
小回ぬ世尊八加葉が我慢心を折く佛道小飯依せんと思召され其日も留りて樹
下小坐し終日座禪工夫一夜に至る四天王未降りて世尊の說法を聽受ある各王
光明を放ち日月乃光より猶明れれ加葉が弟子亦違ふ是を見相續り曰什無

毒龍八汝誦已降伏せし今宵亦火光ある何等乃光をんを師の終小往り斯と
告多れ加葉の終り弟子俱小潛小到り窺小四天王未降りて說法を聽居む但
弟子們八光明のまをく其尊容をん更能くも加葉の親くん歎息かがら猶
飯伏の心かく本所小回ぬ世尊八彼が殺起をん日成待りて都て七日小
至りぬ其夜も小梵天帝釈緒天諸菩薩天龍八部も来降りて說法を聽受
小を母夜世尊の御坐の四面光明赫々り加葉八毎夜此奇特を見受り七日小至
初々慚愧後悔一悉達が神通廣大なるを我及ぶ更遠しと慢心を退け二
百五十人の弟子と俱小世尊の前小到り恭敬礼拜して曰願く大知識我が輩を教導
か願え世尊善哉比年と賞しむ髪を剃せ袈裟を著せ此們が為小四諦法
論を傳り一是も依加葉法眼淨を得阿羅漢果を得り此義を傳り加葉
二人乃弟耶提加葉伽闍加葉の二百五十人はの弟子を率りて佛弟とる各
法眼淨を得阿羅漢果を得り

釋迦御一代圖卷之三畢

